

中国における和製漢語の受容

国語教育専修 修教08-015

殷 菁

研究範囲

日本と中国は長い歴史の中で早くから文化関係を持ち、5世紀から6世紀頃、漢字は中国から日本へ伝えられ、その形態・機能が利用され、日本語の表記に使われている。明治維新まで、ほとんど[中国から日本へ]という一方通行の交流であった。当時の[外来語]はインドから伝来した仏教用語だけであった。19世紀後期から20世紀初期にかけて、日本の和製漢語が中国に逆輸入され、現代中国語の形成だけでなく、中国の近代化にまで大きな役割を果たし、そして今も日常語として使用されている。

本稿は、中国と日本の歴史、社会背景を注目しながら、中国に和製漢語が大量に逆輸入された背景と要因、また、和製漢語が中国に与えた影響及び中国において和製漢語の使用実態を検討したものである。ただし、対象となる和製漢語は、劉正[土炎]・高名凱・麦永乾・史有為著『漢語外来詞詞典』(上海辞書出版社1984年12日)と『現代漢語外来詞研究』(文字改革出版社1958年2月)において【〔源〕日】となっているものである。この二つの著書の和製漢語の認定と分類に問題がないわけではないが、研究の範囲を決めた方がよいことと、和製漢語の研究で一番使われている資料であることと判断した結果、参考にした。

和製漢語とは

和製漢語の定義については様々である。例えば、[日本で日本人によりつくられた、古典中国語・近代北方中国語の語彙・語法・文法を基盤として参照しつつ、ヨーロッパ言語の翻訳借用や日本語の語彙・語法・文法の影響を交えて造語された、漢字の音をもちいて読むことば]のようなものがある。簡単にいうと、文字通り日本でつくられた漢語のことである。現在の日本では、外国から伝来した物事や概念をカタカナで表記することが多いが、明治時代においては、漢語で表すことが一般的であった。西洋文明を積極的に取り入れることによって、新しい漢語がたくさんつくられた。それが和製漢語である。[新漢語]ともいう。中国

では和製漢語のほかに、[日語借詞]、[日語借用詞]、[日語外来詞]という名称がある。

『漢語外来詞詞典』の中に収録されている和製漢語の例を挙げよう。

ページ	和製漢語					
291	熱帯	ねったい	人格	じんかく	人力車	じんりきしゃ
	人権	じんけん	人文主義	じんぶんしゅぎ	人選	じんせん
292	任命	にんめい	日程	にってい	日和見主義	ひよりみしゅぎ
	溶媒	ようばい	溶体	ようたい	柔道	じゅうどう
	柔術	じゅうじゅつ	肉弾	にくだん	入場券	にゅうじょうけん
	入超	にゅうちょう				
293	入口	いりぐち				

本論概要

清朝末期の改革家たちは内憂外患の中国を救うために、これまで[蛮夷]としてしかみていなかった西洋の近代学術と思想を国内に取り入れることを決め、西洋の国々に留学生を送り始めた。しかし、当時半植民地半封建の中国は、経済的にも時間的にも余裕がなかった。ちょうどその頃の日本は西洋文明を取り入れ、明治維新を行い成功した。中国の官僚と学者たちは、西洋より日本のほうが距離的に近い、経費が安い、同文同種、そしてすでに西洋書籍を精選したという利点を認識し、日本を中心に留学生を派遣し、日本留学ブームと日本書翻訳ブームを起こした。つまり、清は日本語を架け橋として、西洋学問を取り入れた。同時に、和製漢語も翻訳家の翻訳出版と、留学生たちの引用によって中国に上陸した。和製漢語は外国からの訳語であるため、国内の訳語との競争が当然避けられなかった。結果、漢字への強いこだわりが中国学者たちのハードルになり、自由な発想で訳語づくりに挑んだ日本学者の勝利となった。社会科学と自然科学のあらゆる分野の訳語には和製漢語が70%を占めると言われている。お陰で、中国に新しい学術と思想が伝来し、和製漢語自体も中国現代文形成の基盤となった。中国語の日常語として現在まで愛用されている。

この研究を通して筆者は中国に対する日本の存在感を感じた。日本は中国と西洋の媒介として大きな役割を果たし、日本でつくられた和製漢語は現代中国語を作り上げた。中国と日本は今までも、これからもお互い協力しながら、競争しながら、影響しながら発展していく

と思う。